水道事業基本計画（水道事業ビジョン）に掲げる指標の進捗状況

［進捗評価］ a. 取組みによる効果が表れている
b. 取組みによる効果が表れているが不十分
c. 取組みは順調であり今後効果が表れる見込み
d. 取組みによる効果が表れておらず、改善が必要
e. 取組みに未着手

	目標指標名	単位	望ましい方向	基準値（H25実績）	R3年度	R4年度	目標値（R6年度）	進捗評価	評価内容と今後の取組み
①安全	水質基準適合率	%	⇑	100	100	100	100	a	・水道水は水質基準全ての項目（51項目）について適合している。今後も自己検査体制を強化し、精度向上に努める。 ・水質への更なる信頼性向上のため、水道GLP（水道水質検査優良試験所規範）の取得に向け、令和5年度に認定申請を行った。
	平均残留塩素濃度	mg／L	⇕	0.32	0.32	0.35	0.1～0.4	a	・今後とも、安全安心な水道水をお客様にお届けするため、きめ細かな残留塩素濃度の管理を行う。
	連続自動水質監視装置設置数	台	⇑	13	15	15	15	a	・令和元年度に設置完了し、目標を達成した。 ・今後は、配水監視システムの更新に併せて再配置と台数の見直しを行う。
②強靭	管路の耐震化率	%	⇑	10.9	18.4	19.0	22.0	b	・令和4年度は、複数の入札不調の影響により耐震化率の伸びが鈍化した。入札不調の要因は、他事業も含めた工事の需要に対し、業者が不足していること。引き続き、工期に余裕を持たせる、発注時期を平準化するなど、入札不調対策を行う。
	基幹管路の耐震適合率	%	⇑	—	70.0	70.2	—	a	・基幹管路は、地震によって被災すると市民生活に大きな影響を及ぼすことから優先して耐震化を進めており、その耐震適合率は70%を超え、全国平均の41.2%（令和3年度末時点）を大きく上回り、高い水準にある。 ・今後も、計画的に耐震化を進めていく。
	配水池の耐震化率	%	⇑	63.6	77.8	77.8	69.0	a	・平成29年度に目標値を達成した。 ・令和6年度からは高崎配水池の更新を予定しており、着実に事業を進めている。
	可搬ポリタンク・ポリパック保有度	個／1,000人	⇑	30.8	67.0	62.4	54.0	a	・令和元年度以降、目標値以上の保有度を維持している。 ・令和4年度末時点で、可搬ポリタンク82個、ポリパック（給水袋）29,445枚を保有している。
	給水拠点の整備箇所数	箇所	⇑	0	125	125	55	a	・平成30年度に市内小中学校23校の受水槽の改修を行い、指定避難所123箇所と防災機能を有する公園2箇所の計125箇所を応急給水拠点として指定した。 ・今後は、応急給水拠点に応じた資機材の備蓄を進めていく。
③持続	給水普及率	%	⇑	98.18	99.84	99.84	99.90	a	・ほぼ市内全域に普及している。 ・給水区域内に点在する未給水の小規模集落については、住民のニーズや地域特性に応じて将来の水供給のあり方を今後検討するとともに、「大分市上水道未整備対策支援事業」により生活用水の供給支援を行っている。令和4年度は切替要望のあった森ノ木地区について上水道に統合した。
	有効率	%	⇑	92.17	91.27	91.40	95.00	b	・有効率の低下要因となっている漏水を抑えるため、引き続き漏水発生の可能性が高い管種（普通鋳鉄管等）を更新するとともに、管路台帳総合システムにおいて過去の漏水個所を可視化し、漏水の多い箇所の管路更新を優先的に行う。
	配水施設の廃止数	件	⇑	—	9	10	10	a	・令和4年度に上白木減圧水槽を廃止し、目標を達成した。
	自己資本構成比率	%	⇑	68.0	79.4	79.7	76.6	a	・毎年度の純利益計上に伴い資本金が増加し、自己資本構成比率は上昇している。今後も財政状態の安定・向上に努める。
	給水収益に対する企業債利息及び償還元金の割合	%	⇓	47.26	27.22	29.08	28.00	a	・令和4年度は、企業債利息及び償還元金は前年度と同程度であったが、物価高騰の影響に対する水道料金の減免を行った結果、給水収益が前年度と比較して減少したことから指標が上昇した。 ・今後は、積極的な管路及び施設の更新による事業費の増加に伴い令和6年度から令和9年度にかけて企業債の発行額と残高の増加が見込まれており、企業債利息及び償還元金も増加する見込み。
	料金収納率※	%	⇑	99.45	99.89	99.90	99.70	a	・債務者に対して文書を送付するほか、長期未納者に対しては電話や訪問により事情確認を行うなど細かな対応を行い、継続して収納率の向上に努めている。
	給水量1㎥当たり電力消費量	kWh／㎥	⇓	0.56	0.57	0.57	0.54	b	・令和4年度は、古国府浄水場における受電設備の高効率機器への更新工事の第1工区を完了し、第2工区は令和5年度中に完了予定。 ・今後も、設備更新の際に高効率機器を導入し、電力消費量の抑制に努めていく。

※「料金収納率」の対象は過年度分（令和4年度の数値は令和2年度の水道料金が対象）